

身近な文化財

第一話
文化財とは
なにか？

文化財とは、限られたごく一部のものを指すと考える方も多いかもしれませんが。

国や自治体では文化財の指定制度を設け、歴史、学術、芸術上特に価値の高いものについて保存が図られています。

ただし、指定されていなくても、地域の大切な文化財であることに変わりはありません。

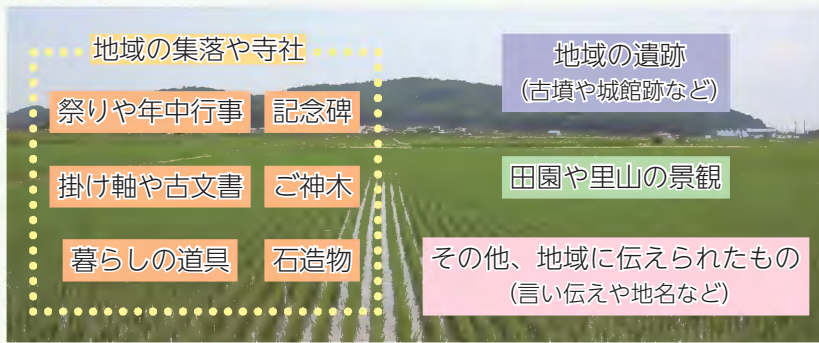
例えば指定されていない古文書も、土地の歴史の証拠です。失われると、そこに記されていた歴史は二度と分からなくなってしまうです。

地域の文化財をまとめたものとして保存し、次の世代に引き継ぎ、地域づくりに活用するため、平成31年に「文化財保存活用地域計画」の制度が設けられました。市でもこの計画を策定し、令和3年12月に県内で初めて文化庁の認定を受けました。では地域の文化財とは、具体的にどのようなものなのでしょう。

「文化財保護法」によれば、文化財とは建物、美術品、古文書、暮らしの道具、祭礼や行事、遺跡、希少な動植物などです。それに加えて近年は、長い人の営みが作り出した文化的景観、食文化や茶道といった生活文化も含まれるようになってい

ます。文化財は、遠いところにある貴重品ではなく、より身近なところにあるのです。今月号から、地域の身近な文化財を取り上げます。家の中や道ばたなど、文化財は思わぬところで見つけることが出来ます。

～身近な文化財の一例～



文化財課 ☎2310

～白河の景観を守り・つくり・育てる～

景観まちづくり通信

Vol.1

今月号から、白河の景観まちづくりに
ついてシリーズでお知らせします。

本庁舎都市計画課 内2235

「景観」ってなんだろう？



「景観」と聞いて皆さんは何を思い浮かべますか？遠くの山並みでしょうか。それとも、住宅やお店が建ち並ぶ街並みでしょうか？

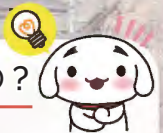
景観は、目に見える眺め（景）とそれを見る人の感じ方（観）によって生み出されるものです。

そして、通勤や通学、買い物、散歩など、普段の生活で目にする景色の裏には、先人が守り築き上げてきたこれまでの歴史や風土、伝統や文化、人々の暮らしや経済活動などが詰め込まれています。

そのような背景にも想いを巡らせながら、少し違った視点でいつもの景色を眺めてみませんか。

今まで気づけなかった新たな発見があるかもしれません。

景観まちづくりになぜ取り組むの？



皆さんが「きれいだなあ」「心地よいなあ」と感じる白河の景観を思い浮かべてみてください。

「きれい」「心地よい」と感じる良好な景観は、私たちの生活に潤いと安らぎを与えるとともに、白河を訪れる方へのおもてなしにもつながります。

景観まちづくりは、大がかりな整備だけでなく、草花の手入れや清掃活動など、身近な取り組みがとても大切です。

白河の良好な景観を守り、新たな魅力をつくり、育てながら、先人から受け継いだ景観のバトンを次の世代につなぐため、市民や事業者の皆さんと行政が協力し、景観まちづくりに取り組みましょう。

身近な文化財

第二話
行き先や藩の境を
示す石柱

石造物は、ほかの文化財に比べて劣化しにくいいため、現在も各地で見ることが出来ます。

道の傍らに目をやると、よく見かけるのが道標（道しるべ）などの石柱ではないでしょうか。

道標は、現在の道路標識のように目的の地までの距離や方向を示すもので、市内でも道路の分岐点などに残っています。

城下の二番町の交差点には、江戸時代に奥州街道と原方街道の分岐点に建てられていた道標があります。



▲高湯山道標（二番町）

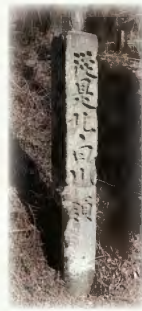
この道標は、白河の商人とみられる常盤惟貞が天保9年（1838）に建てたもので、「高湯山 右 那須原道 左 江戸海道」と刻まれています。高湯山は、那須の茶臼岳から湧き出る温泉をご神体とする霊場で、この道標は高湯山参詣の道案内を兼ねたものと考えられます。

また、白河藩と他領地の境を示す石柱として現在いくつか確認されている「藩界石柱」は、松平定信が藩主の時代に建て

られたと考えられます。

白河藩は大名の入れ替わりが多かった藩ですが、定信は長く白河を治める意志を家臣や領民に示すため、藩境の杭を石製のものにすることを記録に残しています。

この石柱は、境の明神付近に建つ「従是北白川領」と刻まれているものがよく知られていますが、白河関跡から南下した栃木県境の「追分の明神」にも同様のものが建っています。



▲藩界石柱（追分の明神）



▲藩界石柱（境の明神）

このほかにも「従是南白川領」と刻まれている石柱が大信上小屋から会津街道を北上した先の天栄村内にあるほか、矢吹町など市外でも確認されています。このように、当時の旅人が見ていた道標や石柱を今でも目にする事ができます。

文化財課 ☎2310

～白河の景観を守り・つくり・育てる～ 景観まちづくり通信 Vol.2

今月号は、本市の代表的な景観を紹介します。

☎本庁舎都市計画課 内2232

おすすめ景観募集中！

日常生活で見つけた白河のおすすめ景観をインスタグラムで教えてください。

※詳しくは市ホームページへ



歴史景観

小峰城跡を中心とした旧奥州街道沿いの寺社仏閣、蔵などの歴史的な町並み、歌枕として名高い白河関跡、白河藩主松平定信が築造した南湖公園など貴重な歴史遺産が現代に引き継がれています。



▲小峰城跡と那須連峰

田園景観

阿武隈川、社川、隈戸川などの河川流域に優良な農地が広がり、田植えから稲刈りまで四季折々の景観を楽しむことができます。



▲関山と田園風景

自然景観

白河の最高峰である権太倉山のほか、関山や天狗山などの緩やかな丘陵地と緑豊かな森林からなる自然景観は、ふるさとを感じさせる貴重な景観資源となっています。



▲隈戸川流域からの権太倉山の眺望

眺望景観

白河の宝である南湖公園から望む那須連峰や関山、中心市街地から望む小峰城跡三重櫓は、白河を象徴する眺望景観として市民はもとより多くの来訪者に親しまれています。



▲南湖公園から望む那須連峰

身近な文化財

第三話

天王祭
(キュウリ天王)

暮らしに身近な文化財の一つに、各地域で伝承されてきたお祭りや行事があります。

市内各地では、6月から7月にかけて「天王祭」や「キュウリ天王」などと呼ばれる祭りが行われています。6月は疫病が流行する時期であることから、疫病をつかさどる牛頭天王をまつり、無病息災を祈るものです。市内で行われている天王祭には、おもに「①太鼓を叩き、参加者がキュウリを奉納するもの」と「②神輿の巡業をするもの」の2種類があります。

①では多くの場合、2本のキュウリを奉納し、すでに供えられているものから1本を取って持ち帰ります。このキュウリを食べると病気になるといういわれがあります。①の種類の祭りは、旗宿・板橋・舟田・本沼・表郷河東田・大信下新城・東上野出島などに伝わっていますが、

現在は太鼓を叩いていない所もあります。

ちなみに、キュウリを供える理由は諸説ありますが、牛頭天王をまつる八坂神社の神紋がキュウリを切った断面に似ているからといわれています。

②は、必ずしも「天王祭」とは呼ばれていませんが、牛頭天王をまつる八雲神社の祭りで、キュウリをお供えする地区もあります。

子どもたちが神輿を担いで地区内の家を回り、おはらいをします。これは、白坂地区の大倉矢見や泉岡、皮籠などで行われています。

このほかにも、牛頭天王に関する行事は、大信町屋・上新城、東形見などに伝わっており、地域の大切な文化財の一つといえます。

文化財課 ☎2310



▲河東田牛頭天王祭
(表郷地域)



▲お供え物のキュウリ
(表郷河東田)



▲白坂八雲神社祭礼
(子ども神輿)

～白河の景観を守り・つくり・育てる～ 景観まちづくり通信 Vol.3

今月号は、身近なおすすめ景観を紹介します。

本庁舎都市計画課 内2232

私たちの身近にも素敵な景観があふれています。

子どもの頃、毎日歩いた通学路は、大人になった今、どんな景色に見えるでしょうか。懐かしさを感じるとともに、あの頃は目に留まらなかった木々や草花に心が癒されることでしょう。

毎朝、車で通る場所を、休日にゆっくり歩いてみませんか。車窓からとは違った景色が見えるかもしれません。

自宅の近所でも実は通ったことがない道はありませんか。探検気分を味わいながら、まちの魅力を再発見してみるのもいいですね。

ぜひ身近な景観を楽しみながら、まち歩きをしてみたいかがでしょうか。

おすすめ景観募集中！

日常生活で見つけた白河のおすすめ景観をInstagramで教えてください。

※詳しくは市ホームページへ



Instagramにお寄せいただいた
おすすめ景観をご紹介します！

おすすめ



▲隈戸川の大信不動滝

おすすめ



▲旗宿地区の社川沿い

身近な文化財

第四話
古墳・塚



▲柵形古墳群の位置



▲愛宕塚古墳



▲飯土用の一里塚

「遺跡」と聞くと、ハケを持ち、慎重に発掘調査をする様子を想像し、珍しい、遠い存在と感ずる方も多いかもしれません。市内には、現在確認されているだけで624遺跡があります。実は、皆さんが生活している周りにもたくさんの遺跡がありますが、大半が地中に埋まっているため、存在に気付かず生活していることが多いのです。今回は、地上でも存在を確認できる古墳と塚を紹介しましょう。

ものも確認されています。また、この周辺から土師器や玉類、直刀などが出土しています。現在も墳丘が残る古墳は、下総塚古墳（舟田）、谷地久保古墳（本沼）、三年立古墳（本沼）、愛宕塚古墳（借宿）、鶴子谷古墳群（表郷堀之内）があります。古墳以外にも、土を盛り上げた遺跡に「塚」があります。大信飯土用には、白河と会津をつなぐ会津街道（白河街道）に設けられた一里塚があり、直径7m、高さ2mほどの円形の塚が1基存在しています。

一里塚は、江戸時代に主要な街道に、旅の目印として築かれたものです。

これらの遺跡は、その地域に生活した人々の存在や、多くの旅人が通過した街道の存在を教えてくれる、大切な文化財です。

文化財課 ☎272310

おすすめ景観募集中！

日常生活で見つけた白河のおすすめ景観をInstagramで教えてください。
※詳しくは市ホームページへ



つぎの2つの街並みでは、どちらが落ち着いた印象を受けますか。



建物は街並みを構成する大きな要素です。建物の高さや形態、色彩など、周辺の景観との調和に配慮することで、街並みに連続性やまとまりが感じられるようになり、落ち着いた印象を与えます。

本市では、良好な街並みをつくるため、一定の規

模を超える建物を建てる場合や工作物を設置する場合などには、事前に届出が必要となります。

また、届出の対象となる行為ごとに「景観形成基準」が定められており、適合が必要となります。

届出の対象規模に満たない場合でも、基準への適合に努め、そこに暮らす人々が心地よく感じられる街並みを皆さんでつくっていきましょう。

色彩

外壁・屋根などは、不快感を与えず、四季を通じて周辺の街並みや自然景観と調和する落ち着いた色彩を基調とする。

※届出や景観形成基準の詳細は市ホームページへ



例えば、こんな基準があるワン！



身近な文化財

第五話
路傍の石仏

石仏（石でつくられた仏像）は、屋外の身近な場所で見ることが出来る文化財のひとつです。寺院や神社を訪れると、さまざまな種類の石仏を見つけないでしょうか。また集落の道端などにも、思いがけず古い時代の石仏が置かれています。

鹿嶋神社（大鹿島）の境内にある釈迦如来は、台座を含めると高さ2mほどで、白河の古い石仏としては比較的大型です。正徳5年（1715）に諸国の神社巡礼を終えた記念として地元民によって奉納されたもので、信州高遠（長野県伊那市）の石工によって作られました。市内の関川寺（愛宕町）にも同規模の石仏がありますが、こちらも高遠石工の作です。高遠石工は優れた技術を持ち、各地に出稼ぎをしていました。

集落のお堂や道端でよく見かける石仏に如意輪観音があります。片膝を立て、頬づえをついた優雅な姿勢が特徴です。集落の女性が集って飲食をする十九夜講（子安講）を記念して作られることが多いようです。

市内で珍しい石仏に青面金剛があります。6本腕に憤怒の顔をした仏で、台座に三猿（見ざる・言わざる・聞かざる）がいます。庚申講（暦上の庚申の日）に集まって飲食をする行事の時に作り、厄除けを祈願します。このように、何気ない道端でも200年、300年前の歴史に触れることができます。

石造物と「講」との関係は、また別の号で紹介します。

問 文化財課 ☎2310



▲青面金剛（表郷梁森都々古和気神社）



▲如意輪観音（大信隈戸薬師神社）



▲釈迦如来（鹿嶋神社）

～白河の景観を守り・つくり・育てる～ 景観まちづくり通信 Vol.5

本庁舎都市計画課 内2232

今月号は、景観づくりの主な取り組みをお知らせします。

JR白河駅の周辺は、歴史と文化の拠点となる地区として、景観計画の重点区域に位置づけられており、小峰城跡や白河駅舎などの歴史的資源に配慮した景観づくりを行っています。

以前は、小峰城跡三重櫓が駅前交番や大型案内標識に隠れ、見えにくいといった声が寄せられていました。（写真①）

このため、駅周辺の景観とまちなみのあり方をテーマに、関係機関の話し合いや景観セミナーなどで検討を重ねてきました。

その結果、駅前交番の移転・改修、大型案内標識の撤去、駅プラットホームの屋根の塗り替え、無電柱化など、景観に配慮したさまざまな取り組みが行われ、現在は、三重櫓がきれいに眺められるようになりました。（写真②）

おすすめ景観募集中！

日常生活で見つけた白河のおすすめ景観をインスタグラムで教えてください。

※詳しくは市ホームページへ

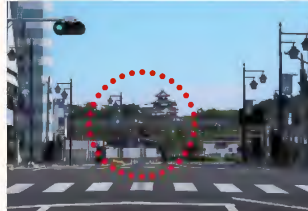


これからも、三重櫓への眺めを大切にしながら美しい駅前の景観をつくっていきましょう。

写真① 平成22年ごろの様子



写真② 現在の様子



これらの取り組みが評価され、平成26年度都市景観大賞の都市空間部門で優秀賞を受賞しました。

写真を見比べると違いが分かるね！



身近な文化財

第八話

各地に残る
中世城館

市内のお城と言えば、小峰城や白川城がよく知られています。が、この他に、鎌倉時代から戦国時代にかけて、堀や土塁（土を盛り上げて作った土手）で築かれた城館跡が多く確認されています。今回は、その中から3か所をご紹介します。

【天王館跡（表郷河東田）】

社川左岸の独立丘陵に位置します。浅川や棚倉に通じる道を見渡す重要な場所に、曲輪（平場）や空堀などが東西約120m、南北約160mの範囲に残っています。頂上部には主要な曲輪があり、曲輪を取り巻くように空堀が配置されています。

【富沢館跡（大信下小屋）】

隈戸川左岸の丘陵に位置します。曲輪や空堀などが、東西約420m、南北約450mの範囲に残っています。城館としては、白河結城氏の本拠であった白川城に次ぐ規模があります。

【高野館跡（東栃本）】

矢武川左岸の丘陵に位置します。曲輪や空堀などが、東西約350m、南北約190mの範囲に残っています。茨城県側から白河に通じる重要な地点に築かれています。

白河の中世に築かれた城館の

《中世城館位置図》



多くは、丘陵などの自然地形を利用し、各地へ通じる主要な道を監視できるような場所に築かれています。市内では、約50か所で確認されており、みなさんの身近な所にも地域を治めた武士の拠点の跡を見ることが出来ます。

文化財課 ☎2310

～白河の景観を守り・つくり・育てる～ 景観まちづくり通信 Vol.6

本庁舎都市計画課 内2232

おすすめ景観募集中！

日常生活で見つけた白河のおすすめ景観をInstagramで教えてください。
※詳しくは市ホームページへ



今月号は「歴史的まちなみ修景事業」をお知らせします。

私たちのまちは、建物のほか、道路や公園、街路樹などさまざまな要素で構成されています。

市では、歴史的な建物が数多く存在する旧奥州街道（現在の国道294号）沿いを、重点的に景観形成を推進する地区に指定し、さまざまな取り組みを行っています。

その一つとして、街道沿いに残る歴史的な建物と現代の街並みが調和する良好な景観を形成するため、景観形成ガイドラインに基づく建物の修景などに対し費用の一部を補助する「歴史的まちなみ修景事業」に取り組んでいます。

▶ 補助の対象区域や対象事業など詳しくは、市ホームページをご覧ください。



《施工前》



《施工後》



修景事例をご紹介します。

ビニール製の庇（ひさし）を撤去し、壁は1階を木板、2階を漆喰調に修景しました。勾配の屋根が通りから見えるようになり、窓には木製の格子を設けるなど、歴史的な街並みと調和を図りました。



身近な文化財

第七話
月待ち講

現在はあまり行われなくなっ
てしまいましたが、町や村には
「講」と呼ばれる集まりがあり、
それぞれ決まった時季に会合な
どの催しをおこなっていました。

講の一つとして「月待ち講」
があります。本来は月の出を待
ち、月を拝む行事ですが、集落
では娯楽の集まりとしての意味
合いも強かったようです。

比較的盛んだったものとして
「二十三夜講」があります。単
に「三夜」「念三夜」などと呼
ばれ、決められた月の23日に行
います。時季は地域によってさ
まざままで、10月、11月、12月、
あるいは毎月行うところもあり
ました。

この二十三夜講は多くの場合、
青年たちの集まりでした。夜に
集まって月を拝み、餅をついた
り飲食をともにして交流します。
また「十九夜講」は、主に女
性の集まりでした。安産などを
祈願するとともに、みんなで飲

食をします。地域の女性が集ま
って話す貴重な機会であり、今
でいう女子会のような楽しみで
あったと思われます。

以前に第五話（8月号）で紹
介した石仏は、こうした講の記
念として建てたものです。石仏
以外の石造物も、あちこちに見
ることが出来ます。

写真は、市内の鍛冶町にある
「二十三夜塔」（二十三夜講の記
念碑）の拓本です。

実物は、嘉永3年（1850）
に建てられたもので、高さ2m
を超える巨大な石碑です。文
字を書いたのは、白河在住の
画家・蒲生羅漢（1784 -
1866）です。このような立
派な二十三夜塔から、地域で講
がいかに盛んであったか分か
ります。

身近な文化財の一つとして、
市内に点在するこうした石造物
にも目をとめてみてはいかがで
しょうか。

▲念三夜（二十三夜）
碑拓本
（市歴史民俗資料館蔵）



▲第五話はこちら
（市ホームページ）

☎文化財課 ☎272310

～白河の景観を守り・つくり・育てる～ 景観まちづくり通信 Vol.7 ☎本庁舎都市計画課 内2232

おすすめ景観募集中！

日常生活で見つけた白河のおすすめ景観
をInstagramで教えてください。

※詳しくは市ホームページへ



～景観学習事業の流れ～

気づく ⇨ 調べる ⇨ 考える ⇨ 行動する

景観を知ろう！ （講義）	まち歩きで気づ いたことを、レ ポートにまとめ よう！	グループで発表 しよう！ 景観まちづくり に取り組もう！
-----------------	--------------------------------------	---------------------------------------

～参加児童の感想～

白河の古い建物や歴史
ある建物を発見するこ
とできてよかったです。

普段は車で気づかずに
通り過ぎていたけど、歩
いてじっくり観察すると
たくさんの景観があつて
すごいと思いました。

※今年度の景観学習事業の様子は、本紙8ページへ

今月号は「景観学習事業」をお知らせします。

誇りと愛着を持つことができる美しいまちをつく
り、育て、次の世代へと伝えていくためには、子ど
もの頃から身近なまちや良好な「景観」に対する興
味や関心を引き出し、ひとりひとりの景観やまちづ
くりに対する意識を高める必要があります。

そのため、市では、平成29年度から日本大学工
学部との協力をいただき、小学生を対象とした「景観
学習事業」に取り組んでいます。

景観学習事業では「気づく」「調べる」「考える」「行
動する」という一連の学習過程を想定し、身近な景
観に気づくことに始まり、現在のまちの景観がなぜ
そのようになっているのか調べ、今後、どのような
まちにしていきたいのか考え、自分でもできる「景
観まちづくり」の具体的な行動につなげていくこと
を目標としています。

身近な文化財

第八話
ムジナブチ

秋の行事の一つに「ムジナブチ」と呼ばれる少し変わった名前の行事があります。

「ムジナブチ」には、収穫に感謝する意味合いや、畑を荒らすモグラなどを追い払う意味合いがあるとされており、旧暦の10月10日（または9日）に行われます。

現在は、五箇地区の舟田・田島入方や本沼、表郷地域の深渡戸などで行われていますが、かつてはより広い地域で行われていました。

行事の呼び名は、地域によって「ムジナブチ」「ドウランブチ」「ドツタラブチ」「舞い込んだ」などさまざまですが、内容はおよそ共通しています。

この行事は、地域の子どもたちが主役となります。家々を回っては、決まった文句を唱えながら棒を地面に叩きつけるという一風変わったものです。

ここで使われる棒は「ブチボウ」などといい、稲わらの束にミョウガや芋などをを入れて縄で固く縛ったものです。

子どもたちが地域の家を回る際には、まず家の人に声をかけ

てから、玄関先で決まった文句を唱えながら、ブチボウで地面を叩きます。

唱える内容は、地域ごとに少しずつ異なります。例えば、本沼地区で行われる「舞い込んだ」では「舞いこんだ舞いこんだ、福の神が舞いこんだ、大麦小麦、三角そばあたれ、福の神さずけ」と唱えます。

その後、家の人から餅やお金を受け取り、集めたお金はあとで分け合ったり、子ども会の催しに使います。

これによく似た行事は、北関東や長野にも伝わっており「十日夜」などと呼ばれています。

地域の身近な文化財の中には、このように子どもたちが重要な役割を担う年中行事もあります。



▲「舞い込んだ」(本沼地区)



▲「舞い込んだ」で使われるブチボウ

問文化財課 ☎ 23110

～白河の景観を守り・つくり・育てる～ 景観まちづくり通信 Vol.8

本庁舎都市計画課 内2232

おすすめ景観募集中！

日常生活で見つけた白河のおすすめ景観をInstagramで教えてください。

※詳しくは市ホームページへ



谷津田川せせらぎ通り

今月号は「住民の皆さんが取り組む景観まちづくり」をテーマにお知らせします。

良好な景観づくりには、そこに暮らす皆さんの景観に対する理解とまちづくりへの積極的な関わりが欠かせません。

現在、市内5地区でまちの特性を生かした良好な景観をつくるため「景観まちづくり協定」が結ばれています。住民の皆さんの話し合いで、建物の新築や改修を行う際の建物の高さや壁面の位置、屋根の形状、色彩などの基準

を決め、周辺環境と調和した景観づくりに取り組んでいます。

建物の修景整備だけでなく、まちを彩る植栽や地域の清掃活動など、日々の暮らしに根ざした地道な活動も景観づくりにつながります。

皆さんのまちでも、身近なところから景観づくりに取り組んでみませんか。



景観まちづくり協定締結地区

- ▷ 金屋町谷津田川せせらぎ通り景観協定
- ▷ 白河城下景観まちづくり協定
- ▷ 白河門前通り景観まちづくり協定
- ▷ 横町景観まちづくり協定
- ▷ 田町景観まちづくり協定

身近な文化財

第九話

床の間と文化財

年の暮れになると、家の大掃除を行う家庭も多いのではないだろうか。

日頃使っていない蔵や物置をのぞいてみると、中には古い品物が見つかったりすることもあ

るかもしれない。そうしたもののの中に、身近な文化財が眠っていることがあります。

例えば、先祖や昔の家業について書かれた書き付け（古文書）や、床の間に飾っていた掛軸などです。

いようです。

床の間には、こういった掛軸が掛けられていたのでしょうか。

もちろん家によって違いはありますが、例えば、お正月には松竹梅や鶴亀など縁起のよい絵を飾り、桃の節句には桃の花やひな人形の絵を飾ります。あるいは桜や紅葉など、季節の草花の絵を飾ります。また、家の守り

として「天照大神」などの神号を書いたものや、商売繁盛を願う恵比寿大黒の絵などを飾り、家内の厄除けや繁栄を願うこと

もありました。これらは、美術品であるとともに、家の歴史を物語る資料でもあります。もしもそういったものを見つけたことがあれば、家の歴史やかつての家の様子を振り返ってみてはいかがでしょうか。

▲おめでたい鶴亀の絵の掛軸
(市歴史民俗資料館蔵)

※作者の浦生羅漢は、江戸時代後期の白河の画家で、地元に多くの作品を残しました。

☎文化財課 ☎2310

～白河の景観を守り・つくり・育てる～ 景観まちづくり通信 Vol.9

☎本庁舎都市計画課 内2232

今月号は、景観啓発の取り組みをお知らせします。
11月6日に、親子景観学習「しらかわ景観探検隊」を開催しました。

これは、次の世代を担う皆さんに景観に興味や関心を持ってもらうことを目的に、日本大学工学部の協力のもと、市内の小学4年生から6年生の児童と保護者を対象に初めて実施したものです。

隊員に任命された参加者は、景観マップをもとに、白河駅や旧脇本陣柳屋旅館蔵座敷、白河ハリストス正教会などのチェックポイントを巡り、そこで出題される景観クイズに挑戦するなど、楽しみながら白河の景観を学びました。

白河には、歴史的な建物や豊かな自然など、素敵な景観資源が数多くあります。皆さんもまち歩きをして、お気に入りの景観を見つけてみませんか。

おすすめ景観募集中！

日常生活で見つけた白河のおすすめ景観をインスタグラムで教えてください。

※詳しくは市ホームページへ



しらかわ景観探検隊員の声

協定をつくって市の景観を良くしようとしていることが分かった。

白河駅は木造でできていた。

お天気も紅葉もきれいで楽しかった。

木の看板のお店が多かった。

自分が住んでいる市だけど、知らないことがまだまだたくさんあった。

身近に福島県指定重要文化財が色々あって、もっとよく見てみたいと思った。



身近な文化財

第十話

白河石と
石切丁場

市内では、通称『白河石』と呼ばれる石材が露出する所が数多く見られます。白河石の正式名称は、安山岩質溶結凝灰岩と言いい、柔らかく加工しやすい特徴があります。

白河石は、古墳の石室や石碑などに用いられてきたほか、身近な石造物の材料となるなど、白河の歴史や文化と深いかわりがあります。

白河のまちの中心的な文化財である小峰城の石垣においても、膨大な量の白河石が使用されています。

石垣の石材は「石切丁場」と呼ばれる採掘場から「矢」と呼ばれるくさびで割られ、小峰城に運ばれてきました。石を割った際についた矢の痕（矢穴）は、石垣でも見ることができます。



小峰城の石切丁場としては、記録に文珠山と羅漢山が記されています。文珠山は山全体の石材が切り出され、地名に名残を留めるのみですが、羅漢山では、南側斜面の岩盤や落下している石に、矢穴を確認することができます。

近代に入っても、白河の産業として白河石の採掘が続ぎ、白河駅・久田野駅から全国に出荷されていました。現在も、建物の土台などの材料として幅広く使用されています。

白河石は、さまざまな形で市内各所に使われ、白河の風景の一部になっていると言えるのではないのでしょうか。



▲露出した岩盤
(羅漢山石切丁場)

◀岩盤の矢穴



拡大

矢穴

問文化財課 ☎2310

～白河の景観を守り・つくり・育てる～ 景観まちづくり通信 Vol.10

問都市計画課 内2232

おすすめ景観募集中！

日常生活で見つけた白河のおすすめ景観をInstagramで教えてください。

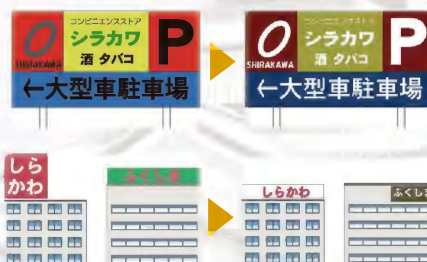
※詳しくは市ホームページへ



屋外広告物の改善例

【現状】

【改善例】



鮮やかな色彩を避けるだけで、落ち着いた印象に！



広告物の形態や色彩を工夫すると、すっきりした印象に！

適切な維持管理のお願い

近年、老朽化や台風などの自然災害による屋外広告物の落下事故が全国的に発生しています。

屋外広告物を設置している皆さんは、定期的に安全点検を行うなど、適切な維持管理をお願いします。

今月号は「屋外広告物」をお知らせします。

私たちの住むまちには、ポスターや立看板、広告板など、さまざまな屋外広告物が表示されています。

屋外広告物は、私たちの生活に必要な情報を提供する重要な情報源であるとともに、まちに賑わいや活気をもたらします。しかし、無秩序に数多く表示されると、情報が的確に伝わらなかったり、美しい景観が損なわれたりするおそれがあります。また、適切な維持管理が行われないと、落下や倒壊などにより人々に危険がおよぶことも考えられます。

市では、良好な景観の形成や屋外広告物の安全性の確保を図るため、平成28年に市独自の屋外広告物条例を施行しました。現在は、条例に基づき、地域の特性に合ったよりきめ細やかな規制・誘導を行っています。

身近な文化財

第十一話
板碑と信仰

白河市内には、たくさんの方の石造物がありますが、その中の一つに、板碑があります。板碑は、石製の塔婆です。主に鎌倉時代から室町時代に、関東地方を中心に全国で建立されました。

市内で見られる板碑は、白河石を用いてつくられ、形状は、三角形の頭部の下に、二条の溝を配し、この部分が碑面よりも前に張り出す特徴があります。碑面中央には、梵字（種字）と呼ばれる、仏・菩薩などを一字で記したものを彫るのが一般的ですが、中には梵字の代わりに仏・菩薩を線刻などで表したのも見つかっています。さらに、梵字の下には、建立年・供養者名と考えられる人物名が刻まれているものもあります。

市内最古の板碑は、大信中新



▶(図1) 建長の板碑
(大信中新城字入塩沢)

城に所在するものです(図1)。碑面中央に梵字(胎蔵界大日如来)を配し、その下部に建長8年(1256)と刻まれており、鎌倉時代に建立されたことが分かります。

さて、これらの板碑は、どのような意図で建立されたのでしょうか。それは現在の「卒塔婆」のようなもので、死者の菩提を弔うためや、あるいは、そうした行為により建立者が功德を積み死後、極楽往生するためと考えられています。

白坂石阿弥陀に所在する板碑(図2)のように、建立後その土地の地名の由来になったと考えられるものもあります。これらは、現在も地域の人々により大切に守られています。



▶(図2) 石阿弥陀の板碑
(白坂石阿弥陀)

問文化財課 ☎2310

～白河の景観を守り・つくり・育てる～ 景観まちづくり通信 Vol.11 ◎都市計画課 内2232

おすすめ景観募集中！

日常生活で見つけた白河のおすすめ景観をInstagramで教えてください。
※詳しくは市ホームページへ



今月号は「生活景」をお知らせします。

白河の景観といえば、小峰城跡や南湖公園、白河関跡などの歴史景観のほか、権太倉山や関山など緑豊かな自然景観などを思い浮かべる方が多いかもしれません。では、皆さんがお住まいの地域の景観といえば、どのような風景を思い浮かべるでしょうか。懐かしさを感じる田んぼのあぜ道、ほっとする落ち着いた街並み、わくわくする路地裏など、それぞれ心に刻まれた風景があるのではないのでしょうか。

地域の景観は、これまでの歴史や文化、人々の暮らしにより生み出され、長い年月をかけてはぐくまれてきたもので、このような地域に根差した身近な景観を「生活景」と表現することがあります。

生活景は、あまりにも身近すぎて価値を認識しづらいものですが、地域の魅力や個性を表現するとても重要なものです。

皆さんもぜひ地域を歩いて、お気に入りの景観を見つけてみませんか。



身近な文化財

第十二話
ひな人形の
種類と流行

3月3日は「桃の節句」。ひな人形を飾り、女の子の幸福を祈る日です。現在、家庭で飾られるひな人形も、代々伝わるものから最近購入したものまでさまざまと思いますが、ひな人形にも時代ごとの流行りがあらわれていると言えます。

現在のひな人形は一般に「古今雛」の流れと言われています。このひな人形は、ガラスなどの目を入れた写実的な顔立ちと豪華な衣装が特徴で、1800年前後から江戸で発展し、関西でも流行しました。

古今雛以前に庶民に好まれたのがいわゆる「享保雛」で、女雛の着物の裾が綿を入れて大きく膨らんでいること、男雛の袖が左右につばついていることが特徴です。名称の「享保」は、



▲古今雛（江戸時代後期）



▲享保雛（江戸時代後期、天神町・安田家旧蔵）



▲御殿雛（昭和30～40年代）

江戸時代の享保年間（1716～1736）の頃から作られるはじめたことが由来といわれます。古今雛が主流になっても一定の需要があったとみられ、江戸時代の終わりまで作られました。

近代になると、一部地域で一般的だった様式が全国に流行することもありました。江戸から流行した段飾りとは別に、関西では雛人形を木組みの建物の中に入れて飾る「源氏杵飾り」という形も一般的でした。この流れをくむ「御殿雛」が昭和30年代前後には東日本の各地まで広がり、白河でも多く飾られたようです。

このように、ひな人形にも時代によって違いがあり、それぞれがその家の歴史や思い出を語る貴重な資料といえます。

問 文化財課 ☎ 27310

～白河の景観を守り・つくり・育てる～ 景観まちづくり通信 Vol.12

◎都市計画課 内2232

シリーズ最終回の今回は「今日からできる身近な景観まちづくり」をお知らせします。

一年を通して、景観まちづくりの必要性、地区の住民や行政による具体的な取り組みをお知らせしてきましたが、景観まちづくりは、建物の整備など大がかりなものだけでなく、私たち一人ひとりの小さな取り組みがとても大切です。

例えば、庭先の木や花の手入れをする、家のまわりのごみ拾いをする、まちを散歩して身近な風景に興味を持つなど、それ自体は小さな取り組みかもしれませんが、日々の積み重ねやまち全体への広がりにより、



おすすめ景観募集中！

日常生活で見つけた白河のおすすめ景観をInstagramで教えてください。
※詳しくは市ホームページへ



愛着と誇りを持てる美しいまちをつくることにつながります。

景観は、そこで暮らす皆さんの共有の財産です。市民の皆さん、事業者の皆さん、行政がそれぞれの役割分担のもと、協力して身近な景観まちづくりに取り組み、美しい「ふるさと白河」を築いていきましょう。



身近な文化財

第十三話

家にあるような文化財①

古写真・絵はがき

かつての白河の様子をありのままに知ることが出来る資料といえ、古写真や写真絵はがきなどがあります。

カメラは、戦後の高度経済成長期以前には、まだ貴重なものでした。その頃の写真は、家族や学校の集合写真など大切な人の姿を留めたものが多く、写真1のようなまちなみの風景を収めたものは100年前、あるいは50年前のものであっても多くありません。

絵はがきは、私製はがきが認められた明治33年(1900)以降に流行しました。写真2は、南湖公園の写真絵はがきです。

大正13年(1924)、南湖公園は国の史跡名勝となり、訪問客でにぎわうようになりました。湖畔に軒を並べる茶店や旅



▲写真1
昭和30～40年代の本町(突きあたりが大坂屋商店・現在のマイタウン)
(鈴木 茂氏撮影・鈴木 良和氏寄贈、歴史民俗資料館蔵)



▲写真2
昭和初期の南湖公園写真絵はがき
(歴史民俗資料館蔵)

館の中には、こうした絵はがきを売る店もあったようです。絵はがきは訪問の記念となる土産であり、地元を持ち帰った後の宣伝効果も期待されたのでしよう。

このような古写真や絵はがきは、白河の歴史文化を知るための貴重な文化財といえます。

もしも家の中で見つければ、大事に保管していただければと思います。また、情報提供もお待ちしております。

なお、4月から市ホームページの「しらかわデジタルミュージアム」で、昔の白河の写真絵はがきの公開が始まりました。

問文化財課 ☎23310



★新生 白河実業

Vol.2

岡白河実業高校 ☎241176



4月10日に開校式が挙行了されました。
(写真は校旗授与の様子)



4月11日に入学式が挙行され、176名の新入生が入学しました。



4月12日に対面式が挙行されました。これからの生徒の活躍を期待しています。

～新しい校章～



旧校章

白河実業高校

埴工業高校



両校(白河実業高校・埴工業高校)の校章を組み合わせたデザインになっています。

～野菜の苗販売を行います～



地域の皆さまに好評をいただいている野菜苗を準備しました。

○販売開始日 5月8日(月)
○時間 午前9時～午後3時
※平日のみ(完売次第終了)
○会場 白河実業高校農場

しらかわの 身近な文化財

第十四話
道ばたに眠る歴史①
戊辰戦争の墓・供養塔

慶応4年（1868）、旧幕府軍と新政府軍の間で戊辰戦争が勃発し、白河では旧暦の閏4月から7月にかけて「白河口の戦い」と呼ばれる激しい戦闘が繰り広げられました。この戦いで、両軍合わせて千人を超える死傷者が出たとされています。

戦争の後、各地に戦死者を弔うための墓や供養碑・慰霊碑が建てられました。本町の長寿院にある新政府軍戦死者墓所や、南湖公園の共楽亭そばにある榎倉藩士の鎮英魂碑などがよく知られています。その他にも多くの墓や供養碑が現存しており、市内だけで合計100基以上を数えます。

例えば、奥州街道と会津街道の分岐点である女石の交差点付近には、旧仙台藩士を弔う供養碑と、周辺で亡くなった名前の分からない武士たちを供養する



▲仙台藩士供養碑（女石）

ために地元住民が建てた石碑が並んでいます。その他、小田川の宝積院や白坂の観音寺、表郷金山の正金寺や東釜子の長伝寺など市内各地域の寺院にも、墓や供養碑が所在しています。

また、激戦地となった稻荷山のみもとにある会津藩戦死者の墓もよく知られています。道路を挟んで新政府軍の長州・大垣藩士の墓があり、両軍の碑が向かい合っています。地元では、どちらも分け隔てなく供養されており、今でも墓前に花が手向けられています。

こうした石碑の中には、田んぼの隅や何気ない道ばたに立っているものもあります。見つけた際には足を止め、歴史を振り返ってみてはいかがでしょうか。

問文化財課 ☎ 2310



▲道路を挟んで向かい合う会津藩戦死墓と長州・大垣藩士墓（松並）

★ 新生 白河実業 Vol.3

問白河実業高校 ☎ 1176

★ 各科紹介① 機械科（本校舎）

機械科では、旋盤や溶接などの機械加工に関する知識や技術を学んでいます。また「SDGsものづくり」をテーマに、廃材を再利用した学習を行ったり、南湖公園へのごみ集積ボックス配置に関する研究にも継続的に取り組んでいます。



▲今年着任の教諭と女子生徒たちの実習風景



▲ごみ集積ボックス制作メンバー

地域で輝く卒業生

大高 勇誠 さん
(令和4年度 機械科卒)

▷勤務先
信越半導体(株)白河工場



現在、ウェーハ製造一課のメンテナンス工程という職場で、機械の基本的な操作を学び、経験を積み使ってもらっています。手順を守らないと危険な作業もあり、ミスをしない工夫や安全に業務を進めるために必要な心構えなど、機械科で学んだことが生きています。

この会社に就職したいと思ったきっかけは、半導体の素となるシリコンウエハーの売り上げが1位でありながら、お客様のために商品の改良や新商品の設計を続けているところにこだわりや努力を感じたことです。

高校在学中、楽しかったのは課題研究です。失敗も多かったですが、友達と協力して一つの作品を作ることに夢中になったのを覚えています。また、機械科でしか取れない資格の取得など、ほかでは経験できない作業に打ち込みました。

しらかわの 身近な文化財

第十五話
天道念仏

天道念仏は、地域の夏の風物詩のひとつです。

文化11年（1814）の記録である「奥州白川風俗問答」によれば、農村では6月に雨が降り続いたとき、晴天を願って神社に参拝し、大勢で鉦や太鼓を鳴らして一日中念仏を唱え、輪になってめぐりながら天道（太陽の正常な運行）を祈ったといい、これらを天道念仏と称しています。

天候の安定は、農作物の収穫にとって何より重要です。農村ではこうした行事を代々継承しながら豊作を、ひいては村の繁栄を祈念してきました。

天道念仏は、福島県内では本市のほか、郡山市・矢吹町・小野町・鮫川村・古殿町・浅川町



▲関辺のさんじもさ踊
毎年7月の第一日曜日に関辺の八幡神社にて行われます。



▲東板倉の阿弥陀様（天道念仏）
毎年6月に板倉の集会場にて行われます。阿弥陀様（板碑）に拝礼し、太鼓を叩きます。

などでもみられます。同様の信仰は関東地方にもみられることから、元は関東から伝わってきたという説もあります。

中通り南部では、天道念仏に踊りをまじえた天道念仏踊が伝えられています。代表的な例は、福島県指定文化財になっている関辺のさんじもさ踊です。

他にも、表郷河東田のテント念仏や東板倉の阿弥陀様（天道念仏）などが今も伝えられています。これらは踊りを伴わない形で、輪になって太鼓を打ち鳴らすものです。

こうした夏のお祭りも、地域の歴史を物語る大切な文化財といえます。

問文化財課 ☎ 2310

★ 新生 白河実業 Vol. 4

問白河実業高校 ☎ 1176

★ 各科紹介② 電気科

電気科では、電気に関する基本的知識や、技術技能の習得に力を入れています。実習では電気技術者に欠かせない体験的な内容を多く取り入れています。多くの生徒が国家資格に挑戦し「第一種、第二種電気工事士試験」に合格しています。資格をいかせる各種電力会社、電気工事関連会社、電気保全関連会社などの就職に有利であると同時に、地元企業にも多くの生徒が就職しています。



地元の電気工事関係者との交流事業の様子



地域で輝く卒業生



高橋 治生 さん
（令和4年度 電気科卒）

▷勤務先
東陽電気工事(株)

私は、今年の4月から東陽電気工事(株)に入社しました。学校生活を振り返り、資格取得や電気の基礎など学べたことが今の成長に繋がっていると実感しています。電気業界では、仕事に必要な資格が多々ありますが「第二種電気工事士」という国家資格を取得した状態で社会人のスタートをされたことが非常に大きく感じます。資格取得には、授業や放課後の課外活動などサポートが充実しており、安心して学べる環境が整っていました。

社会人となり、先輩方から「様々な視点から物事を見ることが重要だ」とご指導をいただきます。高校で基礎を習得したことで、現場では状況を冷静かつ正確に把握し柔軟に対応できていると感じます。今はまだ成功と失敗を繰り返す日々ですが、当社では「安心して失敗できる環境」がコンセプトの研修棟が完備されていますので、恵まれた環境の中、成長できるよう精一杯頑張ります。

身近な文化財

第十八話

お盆と盆踊り

お盆は、祖先の霊を供養し、これを送るための行事です。

江戸時代の記録『奥州白川風俗問答』によれば、白河地方のお盆は江戸と同様の形で行われていたといえます。それは、盆棚を作って餅や団子を供え、ナスやキュウリで牛馬をつくり、家々の門口で迎え火・送り火をするといったものです。

現在も、お盆の時期になると家の前でタイムツ（松の根）を燃やす風景が町のあちこちで見られます。

また、お盆に欠かせない行事として、盆踊りがあります。江戸時代は村ごとに行われていましたが、白河藩の飛び地である

越後から移住する者が増えると、越後風の踊りも流行したといえます。

現在、市内では本沼、表郷竹ノ内・梁森、大信中新城、東釜子などの地域で盆踊りを行っています。多くの場合は広場の中央に櫓を組み、その上で若者が絶えず太鼓を打ち続けます。地域により、笛や唄が入ることもあります。参加者は櫓の周りで輪になって踊ります。

このように、お盆に関する風習や行事は昔ながらのやり方が今に続いているものも多く、身近な文化財のひとつといえます。

問文化財課 ☎ 2310



▲盆の迎え火（『大信村史 第3巻 民俗編』より）



▲盆踊り（表郷竹ノ内）

★ 新生 白河実業 Vol. 5

問白河実業高校 ☎ 241176

★ 生徒たちの輝かしい活躍を紹介します



自転車競技部が、8月に北海道で開催される全国高等学校総合体育大会に出場します。



商業研究部の鈴木海入さんが第40回全国商業高等学校英語スピーチコンテストに出場します。



日本各地の特色ある優れた漬物レシピを表彰する「漬物グランプリ2023」学生の中で、園芸部が作った「黄金梅干し」と「乳酸発酵たっぷりのからし菜のがっこいぶり！」が金賞を受賞しました。



SDGs ⑮
陸の豊かさを守ろう

JRC委員会と農業クラブが南湖公園の環境美化活動を行いました。

しらかわの 身近な文化財

第十七話
屋根瓦（昔の瓦）

現在、小峰城跡には三重櫓が復元されています（写真1）。三重櫓の荘厳な風格を印象づける要素の一つが瓦といえるでしょう。

小峰城跡では、発掘調査で多数の瓦が出土していて、城内の多くの建物に瓦が葺かれていたことが分かっています。

瓦の歴史は古く、日本には6世紀後半の仏教伝来とともに朝鮮半島から伝わり、江戸時代の初めまでは、寺院や城郭など限られた建物にのみ使われていました。



▲小峰城跡三重櫓



▲借宿廃寺跡出土複弁六葉蓮華文軒丸瓦（県指定文化財）

跡が確認されており、そこから多数の瓦が出土しました。軒先を飾る軒丸瓦には、蓮華の花の文様が使われています（写真2）。同じ文様の瓦が、阿武隈川を挟んだ、泉崎村にある関和久官衙遺跡から出土しています。関和久官衙遺跡は、古代白河郡の役所の跡とみられ、同時期に借宿の寺院も建立されたため、同じ瓦が使われたと考えられます。当時の最先端の技術である瓦葺き建築の技術が白河にもたらされたことから、政治の中心地であった飛鳥地方から重要な場所と考えられていた状況をうかがい知ることができます。

問 文化財課 ☎ 2310

★ 新生 白河実業 Vol. 6 白河実業高校 ☎ 241176

★ 各科紹介③電子科（本校舎）

電子科では、電子に関する専門的な知識技術の習得のほか、国家資格取得の奨励やロボット競技大会、ロボット相撲大会、マイコンカーラリーなどへの参加にも積極的に取り組んでいます。



高等学校ロボット相撲北海道・東北選手権大会の様子です。12月に両国国技館にて行われる全国大会に出場します。



地域で輝く卒業生

大塩 仁夢 さん
（令和4年度電子科卒）

▷勤務先
味覚糖(株) 福島工場



私は高校卒業後、味覚糖(株)福島工場に勤務しています。中学時代から電子工学に魅了され、電子科では回路設計やプログラミングに興味を持ち、実践的な課題の研究を積極的に行いました。将来は電子技術をいかし、生産ラインの効率化や品質管理に貢献したいです。

弊社の経営理念である「おいしさは、やさしさ」は、お菓子を通じて人々に喜びと幸せを提供することであると思います。この経営理念が私の使命であり、夢でもあります。福島工場の仕事では、安全安心を提供するため、徹底した品質管理を実践していきたいと思っています。

これからも弊社の一員として働くことに誇りを持ち、より一層成長できるよう邁進していきます。

しらかわの 身近な文化財

第十八話
道ばたに眠る歴史②
石碑

石碑は、石という堅固な材料に文字を刻み、公の場に立てること、出来事が遠い未来まで伝わることを願って作られます。古い石碑として有名なものに、文武4年(700)頃建立の那須国造碑(栃木県大田原市)や天平宝字2年(762)頃建立の多賀城碑(宮城県多賀城市)などがあります。

市内で石に刻まれた文字といえば、古いものでは中世の板碑が挙げられます。また、戊辰戦争に関する供養碑なども多く見ることが出来ます。

それ以外の歴史上の出来事を刻む記念碑や人物を顕彰する顕彰碑といった石碑らしいものとなると、ほとんどが江戸時代以降のものです。



▲古関蹟碑
(1800年建立)

古い例の一つが、寛政12年(1800)に白河藩主松平定信が白河関跡に建てた「古関蹟碑」です。定信自らが文をしたため刻ませたこの石碑には、定信が研究によりこの場所を白河関の跡地と定めたことが記され、白河関跡の研究に関する重要な資料となっています。

また、南湖神社の境内にある「渋沢栄一頌徳碑」は、神社の創建に貢献した渋沢栄一の業績を記すもので、高さ3メートルを超える大きさからも、渋沢への謝意や、歴史を後世に伝えたいという建立者の想いが感じられます。

ほかに、道ばたやお寺・神社の境内などに、各地域の歴史を刻んだ石碑が多数残されています。普段見過ごしがちな石碑の前で足を止めれば、今まで知らなかった地域の歴史を知ることが出来るかもしれません。

問 文化財課 ☎ 2310



▲渋沢栄一頌徳碑
(1929年建立)

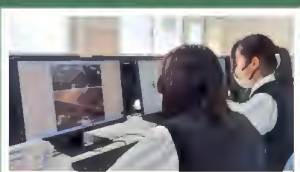
★ 新生 白河実業 Vol. 7

問 白河実業高校 ☎ 241176

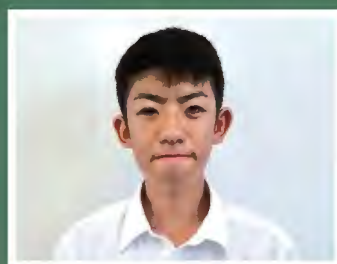
★ 各科紹介④ 建築科

建築科は、令和5年度に新設されました。住宅や商店、学校などの建物は、用途に応じた機能とデザインが要求され、計画・構造・施工・法規など、あらゆる面を勘案し設計する必要があります。

これらを総合的に学習するため、製図や実習を通じて建築に関する基礎知識や技術を習得し、将来建築関係の仕事に就けるよう学んでいます。



現在、建築部では建築競技設計の応募に向け、部員それぞれがアイデアをまとめ、図面を制作中です。



“これから” 地域で輝く在校生

深谷 琉心 さん
(令和5年度建築科入学)
(西郷二中卒)

私は、今年の4月に建築科に入学しました。建築科では、建物に使用される材料について学んだり、住宅の構造を理解するために模型を製作する実習を行っています。また、図面を描く製図の授業では、木造住宅の図面を模写して基礎を学んだうえで、自分で思い描いたデザインを図面化できるよう取り組んでいます。2年生ではCADを使用した実習が始まるため、今からパソコンの基本的な操作の習得に励んでいます。

放課後は建築部で活動しており、自分で設計から製図まで行う競技設計に挑戦中です。

将来は、建築関係の仕事に就き、地域産業の発展に貢献できるよう日々勉学に励みます。

しらかわの 身近な文化財

第十九話
白河の古い道、新しい道

古代から交通の要衝であった白河には、古代東山道や鎌倉時代の奥大道、江戸時代の奥州道中などの主要な道が通っていたことが歴史資料から分かっています。

古代東山道は、発掘調査で確認されていないため、場所の特定には至っていませんが、白河関が人や物資の往来を取り締まる検問所としての役割を果たしていたと考えられることから、周辺に東山道が通っていた可能性があります。

白坂にある白河南中学校の建設に伴う発掘調査では、鎌倉時代頃の道跡の存在が明らかになっています。道跡は幅5m、周囲には掘立柱建物跡・井戸跡などが見つかりました。また、江戸時代初期の道跡が



▲写真1
芳野遺跡道跡



▲写真2
石阿弥陀の一里塚

中世の道跡（写真1）と重なるように見つかりました。道幅は約8mで、両端に幅約70cmの側溝が2条残っています。この道跡を東に向かうと、市指定史跡の石阿弥陀の一里塚（写真2）が一对で残されています。道はこの塚の間を通っていたと考えられ、江戸時代初期の奥州道中と考えられます。

奥州道中は、その後丹羽長重による小峰城の改修に伴い、現在の国道294号のルートに付け替えたと考えられており、社会情勢の変化や地域拠点の移動に伴って道の位置も変更されていたことがうかがえます。

道は、人々や物資の移動だけでなく、情報の移動や軍事的な側面もあり、地域を考える上で重要な文化財です。

問文化財課 ☎2310

★ 新生 白河実業 Vol. 8

白河実業高校 ☎1176

「スポーツの秋」

10月に行われた二つの行事を紹介します。

校内駅伝大会

本校舎をスタートし、川谷小学校までの往復17区間（全長62km）を走りました。沿道の地域の方のご協力、そして温かいご声援をいただきありがとうございました。



運動会

本校舎と塙校舎の生徒が合同で運動会を行いました。11種目で競い合い、みんなの個性が輝いた笑顔の絶えない1日となりました。

▽台風の日



▽ムカデ競争



△綱引き



△塙校舎生徒の和太鼓演奏

しらかわの 身近な文化財

第二十話
家にありそうな文化財②
家電・生活用品

年の暮れになると、家の大掃除を行う家庭も多いかと思えます。日頃使っていない蔵や物置きをのぞいてみると、古い品物を発見するかもしれません。

博物館の資料の中には「民具」という分野があります。これは昔の道具のことです。例えば鋏や千歯こきなどの農具、糸車や羽釜などの生活道具は、江戸時代から使われるものとして教科書に登場することがあります。しかし、最近では戦後の「懐かしい」道具も民具に含まれるようになってきました。

例えば、おなじみの家電でも、昭和時代のもは形や機能が現在と違います。モノクロのテレビや、今よりもずっと機体が大さいラジオ、ダイヤル式の電話機などがありました。



▲真空管ラジオ



▲レコードプレーヤー

れている道具の中にも、手回し式の計算機や真空管式のラジオ、レコードプレーヤーなど、今では見ることもなくなった昭和時代の道具がいくつかあります。

これらは、江戸時代からある農具などとは違い、せいぜい50年から70年ほど前のものですが、現代に近い時代のものであるだけに「価値がない」と処分されがちです。その結果、工業生産品であるにもかかわらず、どこから姿を消してしまうことがあるのです。

近年は、こうした昭和の家電や生活道具なども保存すべきものと捉え、展覧会のテーマにする博物館も出てきています。昔の道具はもちろんのこと「ちよつと昔の道具」も、身近な文化財のひとつといえます。

岡文化財課 ☎2310

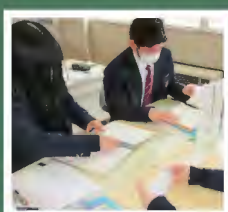
市歴史民俗資料館に収蔵さ

★ 新生 白河実業 Vol.9

〒白河実業高校 ☎1176

★ 各科紹介⑤ 情報ビジネス科

地域社会に貢献できる商業人になるため、実践を多く取り入れながら学習に励んでいます。



卸売商は株式会社形態。生徒は帳簿の整理や小切手の作成を学びます。

(株)加藤螺子製作所や市とコラボし、自動販売機の運営管理を手掛けています。



地域で輝く卒業生

杉山 永遠 さん
(令和4年度 情報ビジネス科卒)

▷勤務先
富士工業(株)白河事業所



情報ビジネス科では、簿記やエクセル・ワードを中心に、プログラミングや経済学など商業に関する幅広い知識を学びました。そこで学んだことや、検定合格のために培った計画力や継続力は、社会に出た今も大いに役立っています。

弊社は、換気と空気清浄分野の製造業で、家庭用レンジフードで国内トップシェアを誇り「全員参加の豊かさ実現経営！」を経営理念に掲げ、人の暮らしや社会に本物の快適さを提供するために日々挑戦を続けています。レンジフードの寿命は一般的に10年と言われていますが、私たちの仕事は誰かの10年と共にあるものだと思っています。「豊かさとは何か？」を本気で考えながら、いつか実現出来るよう、これからも毎日の仕事に精一杯取り組んでいきます。

しらかわの 身近な文化財

第二十一話
数珠繰り



① ▲数珠を回す時には、自分の身体の悪いところをさするとご利益があると言われていいます。

「数珠繰り」は、数人がかりで長い数珠を回しながら念仏を唱える行事です。多くの場合、地域の女性を中心とした行事で、子安講（安産祈願の集まり）などとおわせて行われます。今も田島、入方、表郷の番沢・下羽原、大信の町屋・上新城・中新城・下新城・日和田・増見など、多くの地域で行われています。数珠は念珠ともいい、僧侶が念仏を行う際に玉を一つずつ繰って回数を数えるために用いました。のちに多くの信徒による数珠繰りが行われるようになり、さまざまなご利益を願う行事として各地に広まったようです。市内では2月10日前後に行うことが多く、12月8日や2月8日などのいわゆる事八日（事始め・事納めの日）にあわせて行われる場合もあります。事八日には災いがやってくるとされ、それを防ぐためと考えられます。



② ▲数珠の房の部分回过头ってきた時には、頭を下げて房に触れます。

また、数珠を回す回数が決められている場合もあり、21回、100回、3周など地域によってさまざまです。表郷下羽原では、集落に災いが入ってこないよう、四つ角ごとに立ち止まって数珠を回します（写真①）。参加者で反時計回りに回しながら「カザヨケ（風〔邪〕除け）ネンブツナムアミダ」「ゴキトウ（御祈禱）ネンブツナムアミダ」などと唱えます。大信中新城では、集会所などに集まり、時計回りで数珠を回します（写真②）。録音した念仏を流している間、休みなく数珠を回します。このように、数珠繰りは地域の繁栄や安全を祈って続けられてきた歴史ある行事であり、大切な文化財のひとつです。

問 文化財課 ☎ 2310

★ 新生 白河実業 Vol.10 白河実業高校 ☎ 1176

★ 各科紹介⑥ 農業科

農業科では、地域との関わりを大切にした教育を実践しています。



☆坂本屋総本店とコラボし、本校で生産した農畜産物を使ったプリンの商品開発に取り組んでいます。

◀白河ひよっこプリンと試食会の様子

☆“花いっぱい運動”に取り組んでいます。

白河警察署への
プランター花の寄贈▶



地域で輝く卒業生

菊地 聡 さん
（令和2年度農業科卒）

▷勤務先
菊地果樹園（就農）



私は高校在学中、個性あふれる仲間、そして素晴らしい恩師に恵まれ、充実した3年間を過ごすことができました。

農業科では、栽培や飼育の基礎知識を学んだことや農業クラブ活動に取り組んだことを思い出します。

高校卒業後は、矢吹町の福島県農業総合センター農業短期大学校果樹経営学科へ進学し、果樹に関して高度な知識や技術を学ぶことができました。

現在は実家に就農し、ブドウや桃を中心に果樹栽培に挑戦しています。まだまだ未熟な私ですが、少しずつ技術を磨き上げ、お客様に喜んでいただけるような、こだわりのある果物を生産していきたいと思っています。

近くにお越しの際には、ぜひお立ち寄りください。

身近な文化財

第二十二話

白河だるま

毎年2月11日に行われる「白河だるま市」は、白河の冬の風物詩です。この日は、街なかのだるまを売る露店やさまざまな屋台が並び、多くの人々にぎわいます。

もともとは、旧暦の1月14日に「市神祭」(年の初めの市で、市場の守り神を祀る祭)が開かれていましたが、次第にだるまが主な売り物となつて「だるま市」と称されるようになりました。

だるまは、禅宗の開祖である達磨大師の姿をかたどった起き上がり人形で、江戸時代後期に作られるようになったと考えられています。だるまの赤色は厄除けの意味があり、また「七転び八起き」などというように、縁起ものとして全国に広まりました。今でも各地で地域色豊かなだるまが作られています。

昔から白河だるまは、2つの店舗で製造されており、全体が口・口の形などには違いがありますが、顔や胴の模様が鶴亀松竹梅をかたどっているとされます。



▲白河だるま (佐川だるま)



▲白河だるま (渡辺だるま)

白河だるまの起源は諸説あります。昭和初期の新聞記事には、当時の言い伝えとして、白河藩主松平定信の命により、瓦谷金七という人物が川崎大師でだるまづくりの修業をしたこと、定信の御付絵師の谷文晁がだるまの顔を描き手本に与えたことが書かれています。今わかつている中で、この記事が、白河だるまの由来が詳しく記された最も古い記録です。

白河だるまの特徴の一つは、東北と関東の特徴をあわせ持っていることです。やや縦長の姿は、三春だるま(三春町)のような東北系の特徴です。一方で青や緑などの色を使わず、全身を赤く塗るのは高崎だるま(群馬県)など関東系の特徴です。白河だるまは、みちのくの玄関口・白河ならではの身近な文化財の一つといえます。

問 文化財課 ☎ 2310

★ 新生 白河実業

Vol.11

☎ 白河実業高校 ☎ 241176

★ 各科紹介⑦ 塙校舎

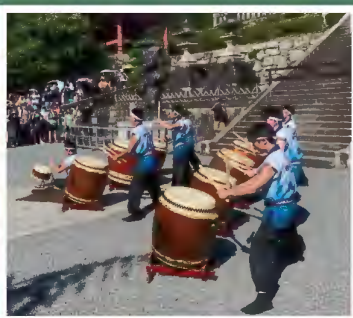
塙校舎では、生徒会が「地域恩返しプロジェクト」を立ち上げ「ものづくり×地域探究」や「地域体験活動」「地域の魅力発信」などを積極的に行っています。



▲ダリア染め体験



▲地域イベントのメダル製作



▲清水寺(京都府)にて福島をPR

地域で輝く卒業生

益子 柊聖 さん
(令和3年度塙工業高校機械科卒)



▷勤務先
住友ゴム工業(株) 白河工場

私は、塙工業高校(現白河実業高校塙校舎)を卒業後、住友ゴム工業(株)白河工場に勤務しています。学校生活を振り返り、機械の基礎などを学び、資格を取得したことが今の成長につながっていると実感しています。

弊社ではタイヤを製造しており、より良い製品をお客様に届けたいと思っています。品質方針である「最高の安心とヨロコビをつくる」に基づいて、ひとつひとつの工程を丁寧に行い、お客様に安心していただけるタイヤを1本1本大切に製造していきます。

私は、住友ゴム工業の一員として誇りを持ち、これからも邁進していきます。

身近な文化財

第二十三話

山と地域の歴史―建鉾山

古来より、山は信仰の対象として地域の人々によって大切に守られてきました。表郷の高木・三森地区にまたがる建鉾山は、山裾が広がる円錐形の山です（写真1）。このような形の山は「神奈備型」と呼ばれ、神聖な山として信仰されてきました。

建鉾山の山麓には昭和30年代の発掘調査によって、今から1500～1600年前の古墳時代の石製模造品が多数出土しました。石製模造品は、剣や鏡、勾玉（いわゆる三種の神器）や農具である斧や鎌などを型取ったもので、祭祀に使われたと考えられています（写真2）。石製模造品が出土した場所から山頂付近を見上げると、複数の巨岩が見えます。これらの巨岩は、

神様が降りる場所（磐座）や、御神体と考えられていたことから、巨岩が見える地で祭祀を行ったと考えられます。

また、山頂には建鉾石といわれる岩があります。伝説では、日本武尊が東征を行った際に、山頂に鉾を立てて、神様を祀ったといわれています。

建鉾山は、都々古別神社（表郷三森）の奥院として、馬場都々古別神社（棚倉町）から御神幸と称する神事行列が明治16年（1883）まで、行われていたと伝わっています。

このような事例から、建鉾山が地域の行事や信仰・歴史の舞台となった場所であることをうかがい知ることができます。

問文化財課 ☎2310



▲写真1 建鉾山祭祀遺跡



▲写真2 建鉾山祭祀遺跡出土石製模造品

★ 新生 白河実業 Vol.12

☎白河実業高校 ☎1176

★ 学習成果研究発表会

2月1日、1年間のまとめとして、本校舎と塙校舎の生徒と一緒に研究発表会を行いました。

各科で活躍した本校生の紹介とその研究成果を発表しました。



▲学習成果研究発表会



▲自作ロボットの実演



▲塙校舎の模型

★ 旅立ち

私たち“新生”白河実業高校一期生は、3月1日に卒業を迎えました。



▲県内でも珍しい、本校舎中庭の日本庭園にて

★ 地域の皆さまへ

1年間をとおして、本校の教育活動を紹介してきました。「SDGs×ものづくり」を掲げ、これからも地域に根ざし、そして地域に愛される白河実業高校を目指してまいります。今後ご支援、よろしくお願いいたします。

しらかわの 身近な文化財

第二十四話

お寺の鐘

寺院の境内には、たいいていの場合屋根つきの「鐘楼」という建物があり、鐘が吊り下がっています。かつては朝夕の時報を告げていたこともありましたが、今は参拝者が鳴らす場合を除いては、除夜の鐘など特別な場合に鳴らすことが多いようです。

寺院の鐘のことを梵鐘（ぼんしゅう）とい、銅でつくられることから銅鐘ともいいます。その歴史は古く、国内最古の鐘は奈良時代にまで遡ります。

市内で最古の鐘は、鹿嶋神社（大）境内の観音堂の軒に吊り下げられていた天文13年（1544）のもので、県指定文化財となっています。

鐘にはたいいていの場合「銘文」が刻まれており、いつ誰がどういった経緯で納めたかが記されています。この鐘の銘文を見ると、白河を治めてい

た結城家の義綱・晴綱父子や一門、家臣たちが共同で奉納したことが分かります（現在、市歴史民俗資料館に展示）。

他にも、龍蔵寺（年貢町の鐘は元禄4年（1691）に白河藩主松平忠弘が、関山満願寺（関辺）の鐘は寛文4年（1664）に白河藩主本多忠平が、それぞれ寄進したもので、いずれも国の重要美術品となっています。これ以外にも、江戸時代に遡る鐘は市内に多くあり、白河の歴史の名残をとどめています。

一方で、火災などの災害や戦時中の「金属類回収令」により失われたものもあります。このように、地域のお寺の鐘も歴史の資料といえます。

お寺を訪れた際には、鐘やその銘文を探してみたいかがでしょうか。

文化財課 ☎ 2310



▲銅鐘（最勝寺）
（龍蔵寺所蔵、歴史民俗資料館寄託）



▲銘文（部分）

ものの忘れの違い

老化によるもの忘れと認知症によるもの忘れには次のような違いがあります。

老化によるもの忘れ	認知症によるもの忘れ
加齢による自然な現象	病気などにより脳の機能が障害される
体験したことの一部を忘れる	体験したことを丸ごと忘れる
ヒントがあると思い出せる	ヒントがあっても思い出せない
あまり進行しない	だんだん進行する
自覚している	あまり自覚がない
日常生活に大きな支障はない	日常生活に支障をきたす

老化によるもの忘れには、繰り返し書くことや何度も口に出すこと、メモをとる習慣を身につけることなどが有効です。



高齢者

Vol.67

あったか広場

高齢福祉課高齢者支援係 ☎ 5519

認知症によるもの忘れへの対応

認知症によるもの忘れの場合「忘れたこと」は「体験していないこと」になるため、忘れてしまっているときは、その出来事から意図的に気をそらせることがポイントです。

例えば、食事後に「ご飯はまだ？」と聞かれた場合「少し時間がかかるから、それまでテレビでも見ててね」などと声をかけることで、テレビに意識が向き「食事」へのこだわりを和らげることができます。

しらかわの 身近な文化財

第二十五話

民具（農具）

民具とは、私たちの日常生活の中で用いられる用具や造形物などを広く指す言葉で、人びとの生活と切り離すことができないものです。

今年、新一万円札に採用されて話題となった渋沢栄一の孫、渋沢敬三（1896～1963）は民具研究の第一人者であり「民具」という言葉の名付け親とされています。

敬三は多くの地域を調査し、民具が人びとの暮らしぶりを明らかにするための重要な資料であることを示しました。

民具の例として、農作物を

育て、収穫するために使われる農具があります。特に白河地方は昔から米づくりが盛んだったため、さまざまな古い農具が残されています。写真は白河の農家で使われていた唐箕という農具で、全長1.5m、高さ1.2mほどもあります。秋



▲唐箕
(歴史民俗資料館所蔵)



ミヨガヤ式
昭和拾年度
旧拾月廿四日
代金拾圓五拾銭也
渡辺氏

墨書から、唐箕の購入日や代金がわかります。

に田んぼから収穫し、脱穀をした米を選別する作業に用います。横に付いているハンドルの中の風車を回しながら、もみ殻などが混ざった米を上から注ぐと、米よりも軽いもみ殻やちりなどが風の力で吹き飛ばされます。

唐箕は江戸時代から近代にかけて普及し、各地の農村で見ることができました。しかし、現代では電動の機械に作業が集約されたため使われなくなり、その用途を想像することすら難しくなった民具のひとつといえます。

暮らしの中で用いられる道具は時代によって移り変わり、改良、あるいは刷新されていきます。人びとの記憶とともに蔵や納屋に眠る古い道具には、先人の生き様を知る手がかりが残されているのです。

文化財課 ☎ 2310



高齢者

Vol.68

あったか広場

☎ 高齢福祉課高齢者支援係 ☎ 5519

認知症の方への対応のポイント

●まずは見守る

さりげなく様子を見守りましょう。近づきすぎたり、じろじろ見たりするのは禁物です。

●余裕を持って対応する

周りの困惑や焦りは相手にも伝わります。自然な笑顔で対応しましょう。

●声を掛ける時は一人で

複数人で取り囲むと恐怖心をあおりやすいので、できるだけ一人で声を掛けましょう。

●後ろから声をかけない

認知症の方は視野が狭いと言われています。背後からの急な声掛けは、相手を驚かせてしまい、転倒の恐れがあります。

●目線を合わせ、優しい口調で

相手が小柄な場合は、目線を同じ高さに対応しましょう。

●穏やかに、はっきりとした話し方で

特に高齢の方は耳が聞こえにくい場合も多いので、ゆっくりとはっきりとした話し方を心掛けましょう。

●相手の言葉に耳を傾け、ゆっくりと対応

認知症の方は急かされるのが苦手です。反応をうかがいながら会話をしましょう。

誰よりも苦しみ、悲しんでいるのは、症状が現れた本人です。

相手の感情を傷つけずに接することが大切です。



しらかわの 身近な文化財

第二十六話

民俗芸能（神楽）

各地のお祭りや年中行事の際に奉納される歌や踊り、演劇などを民俗芸能といい、地域の中で永く伝えられているものもあります。

神楽は、神を迎えて慰めるために舞いや芸などを演じる民俗芸能のひとつです。面をつけて神々の姿になったり、剣や鈴などを持って踊ったりと、継承される地域によって形態はさまざまです。東北地方では、ユネスコ無形文化遺産に登録された、岩手県の早池峰神楽などが有名です。

白河の総鎮守である鹿嶋神社には、神社の祭礼や行事の際に奉納される「鹿嶋神社神楽」が伝えられています。現在では主に、お正月の元始祭、2月のだるま市、9月の白河提灯祭り、11月の新穀感謝祭のときに行われています。



▲鹿嶋神社神楽（だるま市）



▲芳賀須内の虫干し神楽

特に、だるま市では市の中心に仮設の舞台が設けられ、集まった多くの人が神楽の舞いを見物します。

また、小田川芳賀須内地区では「芳賀須内の虫干し神楽」が行われています。獅子頭を持ち、面をつけた神楽の一行が地区内の各戸をまわり、家の中を一巡して無病息災・悪疫退散を祈願します。

神楽の奉納は神との交流であると同時に、私たちの日常の暮らしに楽しみや華やかさを与える存在でもあるといえます。

こうした民俗芸能の継承は、地域の人びとのひたむきな取り組みによって維持されてきました。今に伝えられてきた地域の芸能を、鑑賞してみたいかがでしうか。

文化財課 ☎ 2310



高齢者

Vol.69

あったか広場

高齢福祉課高齢者支援係 ☎ 5519

認知症になってもできること、
認知症に対してできること①

《体が覚えている》

認知症になると急に全てができなくなるわけではありません。これまで培った知識や印象深い出来事などは残っています。特に、家事や趣味、楽しんでやってきたことなどは、体が自然に動くほど、その人にしみついています。

環境作りは必要かもしれませんが、以前と同じことを同じように行えることは、とてもうれしく自信につながるものです。

《豊かな“こころ”》

認知症の症状は少しずつ進行していきます。しかし、感情はかなり末期まで残っているそうです。例えば、少し前の出来事を忘れてしまっても、ここがどこかわからなくなっても、悲しい、寂しい、嫌だ、うれしい、楽しいといった感情は感じています。また、感情の記憶は心に残りやすいものです。

いつもできていたことができなくなったつらさや不安、覚えのないことで注意された嫌な気持ち、自分らしさを発揮できたうれしさを生き生きと感じる心、そしてそれまでの人生を生きてきた誇りはもち続けます。

（認知症介護研究・研修仙台センター資料より抜粋）

認知症があってもなくても、
人から肯定されるのはうれしい
ものです。



しらかわの 身近な文化財

第二十七話

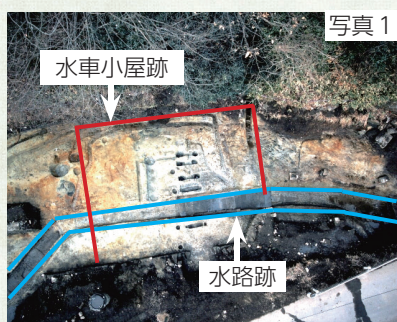
谷津田川流域
水車跡群

平成10年（1998）8月の記録的な豪雨水害を受けて実施された谷津田川の河川改修工事の際、川岸に近い場所から石組の水路跡が見つかりました。

この水路跡は、水車に伴うものでした。水車は水輪が水を受けて回り、水輪と連動して歯車が回り、杵が動きます。この動きを利用した水車による精米や製粉が、江戸時代に普及しました。谷津田川沿岸もまた、江戸時代後半より精米などのために水車が設置されてきました。現在は存在していませんが、絵図や発掘調査により、かつては14基の水車が存在したことが確認できます。

その中の1基、しみずや跡は、平成12年（2000）の発掘調査で水路跡が確認され、水路跡を跨ぐように水車小屋が建てられていたことが分かりました（写真1）。発掘調査の成果と文献資料から、水車は明治中期頃から昭和34年（1928）頃まで稼働していたと考えられ、市内の水車を調査した元白二小教諭の衣山武秀氏への聞き取りにより、水車で精米などを行っていたことが確認できました。

市街地を流れる谷津田川には、このように近世以降の生活の様子を示す貴重な遺跡が残されています（写真2）。
文化財課 ☎ 5535



▲水車小屋跡と水路跡



▲復元されたしみずや跡



高齢者

Vol.70

あったか広場

☎ 高齢福祉課高齢者支援係 ☎ 5519

認知症になってもできること、
認知症に対してできること②

《物忘れのつらさ》

「あれ？何をしに来たんだっけ？」と思う体験をしたことはありませんか？たいていは後で思い出しますが、もし思い出せず、さらにそのような状況が頻繁に起こったらどうでしょう。

認知症になると、このような状況が頻繁に起こります。認知症の人たちは、物忘れをしたときに不愉快や不安な気持ちを抱きながら日々生活をしているのです。

《できなくなってきたことの悔しさ》

認知症になると、仕事や家事など何気なく行ってきたことができなくなり、最初は小さな失敗でもだんだんと重大な失敗に進展する恐れがあります。このような失敗の原因が認知症であるということは理解できなくても、自分がこれまでやってきたことができなくなったことには気付いています。さらに失敗や不手際が目立つようになり、周りの人たちからも指摘され悔しい思いをしたり、少しずつ自信を失っていきたりするのです。

これは、何より認知症の方本人にとって非常に悔しい体験だということを理解することが必要でしょう。

上手くいかないことがあっても、優しい口調での声掛けを心掛けたいですね。



しらかわの 身近な文化財

第二十八話
奥州白河歌念仏踊
(安珍歌念仏踊)

奥州白河歌念仏踊は、福島県の重要無形民俗文化財に指定されている芸能です。

念仏踊とは、お盆や忌日、彼岸、命日などに死者供養などのために奉納される踊りで、福島県内ではいわき市のじゃんがら念仏踊などが有名です。念仏踊の特徴として、踊り歌や囃子詞の中に「南無阿弥陀仏」など、念仏の名残がみられるものが多くあります。

奥州白河歌念仏踊が伝わる地域のうち、活動している団体は減少の傾向にあります。市内の萱根根田地区では「安珍歌念仏踊」と呼ばれる念仏踊が継承されています。安珍とは、和歌山県の道成寺を舞台とする『道成寺物語』に登場する旅の僧です。地元ではその故郷が根田地区であると

言い伝えられており、安珍の墓と伝わる石塔も残されています。

この念仏踊は、安珍の命日とされる3月27日（以前は旧暦の2月27日）に、安珍の供養とともに村内安全や五穀豊穰を願い、地区内の安珍堂で奉納されています。鉦や太鼓の演奏と踊り歌に合わせて、地区の女性たちが安珍などに扮して踊ります。

近年では、地元の中学生たちへの伝承活動などが実施され、若い世代が地区の歴史や文化に親しみ、また地区内での交流を行う機会にもなっています。文化財を活用して、地域の輪をつなぐ事例であるといえます。

文化財課 ☎2310



▲安珍歌念仏踊の様子



▲安珍の墓と伝わる石塔（左）



高齢者

Vol.71

あったか広場

高齢福祉課高齢者支援係 ☎5519

家族（介護者）の気持ち

家族（介護者）が認知症を受け入れられるようになるまでには4つのステップがあると言われていますが、この通りに進むわけではなく、行ったり来たりを繰り返すことも多いです。

《第1ステップ とまどい・否定》

認知症本人の変化に家族はとまどい「認知症ではない、認知症だとは思えない」などの気持ちが働いて、認知症であることを否定しようとします。

《第2ステップ 混乱・怒り・拒絶》

本人の症状が改善されないまま日が過ぎると、家族は混乱し、注意をしても効果が見られないことに怒りの気持ちがわきあがります。そして、精神的、身体的に疲れ、本人を拒絶しようとしします。

《第3ステップ 割り切り》

第2ステップの混乱が繰り返されているうちに「これはどうにもできない、受け入れなければならない」という気持ちになってきます。

《第4ステップ 受容》

認知症に対する理解が深まり、あるがままの姿を受け入れられるようになります。

一人で抱え込まず、早めに本人の主治医や市、地域包括支援センターなどに相談してください。



しらかわの 身近な文化財

第二十九話

白河のまち

本連載では、道ばたやお寺、あるいは家の中など、さまざまな場所で見かけることがある文化財を紹介してきました。今回は、それらを生み出した白河のまち自体を振り返ってみたいと思います。

白河藩の城下町であった現在の中心市街地を通る旧国道294号は、かつての奥州街道に当たり、そのルートはほぼ江戸時代のままと保っています。小峰城を囲むような道筋や、防衛を意識したかぎ型の屈曲には、当時の藩主によるまちづくりの思想が反映されています。また、通り沿いの町割りや町名も、ほとんどが江戸時代のままです。

このようなことから、白河の中心市街地は江戸時代の古地図を手に散策できるまちといわれます。

白河は冬になると風が強く吹き付けることもあり、大火が多かったようで、古い建造物の多くは焼失しています。それでもなお、江戸時代から近代にかけての店舗や土蔵、お堂などの歴史的建造物が点在し、かつての風情を感じることがができます。

また、表郷地域は棚倉街道、東地域は釜子陣屋を中心とした水戸街道、大信地域は会津街道の沿線に発展したまちです。それぞれの地域にも歴史があり、それを反映したまちなみを今に残しています。

このように、さまざまな文化財を生み出した白河のまち自体も歴史の証拠であり、広い意味での文化財といえます。まちを歩けば、先人たちがこれまでの積み重ねてきたまちづくりの足跡を感じることができるでしょう。

問 文化財課 ☎2310



奥州白河城下全図 (文化5年)▲

主要な道や町割りは、現在ほとんど変わっておらず、比較しながらまち歩きができます。

レスパイトは英語で「休息」の意味

レスパイトケアは、介護者の負担軽減につながり、在宅介護を長く続けるために重要なものとされており、デイサービスやショートステイなど、介護者が休息するために利用できる介護保険サービスもあります。

「ちょっと疲れてきたな…」と思った時点で、早めに担当のケアマネージャーや地域包括支援センター、市高齢福祉課などに相談しましょう。

レスパイトケアを利用することにマイナスな感情を持たず、介護される方が少しでも長く在宅生活を送れるよう、積極的に休息時間を確保しましょう。



高齢者

Vol.72

あったか広場

☎高齢福祉課高齢者支援係 ☎5519

介護者のためのケア

在宅介護を行う介護者は、日々の介護で身体的な疲労だけでなく、精神的な疲労もたまっていきます。この疲れをそのままにすると、身体的疲労やストレスが限界に達し、介護者自身が体調を崩してしまうなど、在宅介護が続けることが困難になってしまいます。

そうならないためにも、介護者が一時的に介護から離れ、自分自身の体と心を休める時間を持つこと（レスパイトケア）が必要です。